

レファレンスコーナー

県立図書館に寄せられたレファレンスの事例を紹介します。

Q. 江戸時代の旅の持ち物にはどんなものがあったのでしょうか。

【回答】

庶民が盛んに旅をするようになったのは江戸時代になってからといわれています。『江戸庶民の娯楽』によると、その背景には街道の整備が進み旅行しやすくなったこと、平和が続く生産や流通が発達したことで、消費生活が向上し経済的に余裕が出たこと、幕藩体制が緩和され伊勢参りなど社寺詣でや、物見遊山を兼ねた旅をしやすくなったことなどが挙げられています。

では江戸時代の旅の持ち物にはどんなものがあったのでしょうか。『こんなに面白い江戸の旅』には、所持品はできるだけ少なくすることと記載されています。財布・矢立・扇子・糸・針・懐中鏡・日記帳・櫛・びんつけ油・提灯・蠟燭・火打道具・印判(家へ金の送付を依頼するときに押す)・着替え・鼻紙・印籠・鉤・麻縄・油紙などを持っていたようです。出で立ちは菅笠をかぶり、荷物を入れた行李を振り分けて肩に掛け、道中差(護身用の短刀)を帯に差し合羽を着て、草鞋を履くといったものでした。

旅をしやすい環境になったとはいえ、届け出や身元引受人が必要だったり、往来手形を発行してもらったり、近所に挨拶をして回ったりなどの細かな準備が必要だったようです。また、旅は二人以上とするものとされており、一人旅はよほどのことがない限り許されませんでした。現代と違い旅をするということは、大変なことだったのですね。

『江戸庶民の娯楽』『こんなに面白い江戸の旅』『江戸衣装図鑑』等には旅装束のイラストが掲載されています。

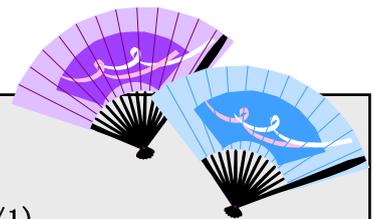
キーワード： 江戸時代 旅 所持品 服装 旅装束 街道 関所 宿場 旅籠

【調査プロセス】

1. キーワード「江戸時代」、「旅」で蔵書検索。
2. 地誌・江戸期の歴史・旅行関連の書棚をブラウジング。

【参考文献】()内は当館請求記号

- 1 『江戸の旅』 今野 信雄 著 岩波書店 1986年 (B/291.09/コ16/1)
- 2 『江戸庶民の娯楽』 竹内 誠 監修 学研 2003年 (210.5/エト)
- 3 『歩きたくなる大名と庶民の街道物語』 新人物往来社 編・出版 2009年 (210.5/アル)
- 4 『図説浮世絵に見る江戸の旅』 佐藤 要人 監修 河出書房新社 2000年 (384.37/ス'セ)
- 5 『こんなに面白い江戸の旅』 菅井 靖雄 著 東京美術 2001年 (291.5/スカ')
- 6 『江戸衣装図鑑』 菊地 ひと美 著画 東京堂出版 2011年 (383.1/キク)
- 7 『旅の民俗と歴史 4 庶民の旅』 宮本 常一 編著 八坂書房 1987年 (291.09/ミ3/5-4)
- 8 『旅の民俗と歴史 6 旅の民俗』 宮本 常一 編著 八坂書房 1987年 (291.09/ミ3/5-6)
- 9 『江戸の旅文化』 神崎 宣武 著 岩波書店 2004年 (B/384.37/カン)
- 10 『旅と観光の年表』 旅の文化研究所 編 河出書房新社 2011年 (R/384.37/タビ)



Q. 江戸～明治時代にかけて、岩手県内の私塾について記載のある資料を知りたい。

【回答】

私塾の定義について、『岩手県の教育史』には、明治16年文部省調査「私塾・寺子屋取調表」において、「私塾と寺子屋を厳密に判別しがたい」と、あります。『岩手百科辞典』には「江戸時代から明治初期にかけて、教師の私宅を教場として開かれた教育機関。漢学塾・国学塾・洋学塾・医学塾・和算塾などその種類が多く、概して寺子屋よりは一段高い教育を施した。」と、あります。

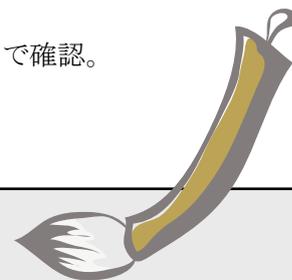
岩手県内では、前掲の明治16年文部省調査「私塾・寺子屋取調表」に掲載された12の私塾のほかにも、漢学塾や算学塾があり、千葉胤秀の関流和算塾や、藩主・南部家が東京で開いた英学塾「共慣義塾」などが有名です。平民宰相・原敬も「共慣義塾」に学びました。

各私塾についての詳細は、以下の参考文献で確認することができます。

キーワード： 私塾 寺子屋 漢学塾 国学塾 洋学塾 医学塾 和算塾 算額

【調査プロセス】

1. 私塾の定義を、『岩手県の教育史』(参考文献1)と「岩手百科事典」(参考文献9)で確認。
2. キーワード「私塾」、「寺子屋」で蔵書検索。
3. 岩手に関する郷土資料のうち、教育史、県史、和算についてブラウジング。



【参考文献】()内は当館請求記号

- 1 『岩手県の教育史』長岡 高人 || 編著 思文閣出版 1986年 (K372/ナ1/5ウ)
- 2 『岩手県域寺子屋物語』長岡 高人 || 著 熊谷印刷出版 1984年 (K372/ナ1/3イ)
- 3 『岩手県教育史資料』第1集 岩手県教育調査研究所 || 編 岩手県学校用品 1956年 (K372/イ2/1-1イ)
- 4 『岩手県教育史資料』第2集 岩手県教育調査研究所 || 編 岩手県学校用品 1957年 (K372/イ2/1-2イ)
- 5 『岩手近代教育史』第1巻 明治編 岩手県教育委員会 || 編・発行 1981年 (K372/イ4/3-1ウ)
- 6 『岩手近代教育史』第4巻 教育統計・年表編 岩手県教育委員会 || 編・発行 1981年 (K372/イ4/3-4ウ)
- 7 『図説盛岡四百年』上巻 吉田 義昭 || ほか編著 郷土文化研究会 1991年 (K211/ヨ1/4B)
- 8 『用語 南部盛岡藩辞典』一ノ倉 則文 || 編 東洋書院 1984年 (K205/イ1/4イ)
- 9 『岩手の和算と算額』安富 有恒 || 著 杜陵高速印刷 1982年 (K410/ヤ2/4イ)
- 10 『岩手百科事典』岩手放送岩手百科事典発行本部 || 編 岩手放送 1978年 (K030/イ1/イ)
- 11 『岩手県教育史資料』第19集 補遺 岩手県立教育研究所 || 編・発行 1965年 (K372/イ2/1-19ウ)
- 12 『岩手県史』第5巻 近世篇2 岩手県 || 編 杜陵印刷 1963年 (K201/イ3/1-5オ)
- 13 『南部藩教育小史』上飯坂 直美 || 編 盛岡市役所 1937年 (K372/カ1/1)
- 14 『岩手県教育史概要』稿本 岩手県教育会 || 編・発行 1935年 (K372/イ1/1)
- 15 『岩手学事彙報』第396号(第391-398号合冊) 九阜堂 1896年 (KS37/イ1)
- 16 『岩手学事彙報』第232号(第212-247号合冊) 九阜堂 1891年 (KS37/イ1)
- 17 『創業期ニ於ケル岩手県教育者一覧』森 嘉兵衛 || 著 岩手県 出版年不明 (K372/モ1/1)

※このレファレンス詳細は「レファレンス協同データベース」で公開されています。是非ご覧ください。

「レファレンス協同データベース」<http://crd.ndl.go.jp/jp/public/>